



## 新日本スポーツ連盟第30期第1回評議員会に参加して（その1）

荒井英治

2月23日、24日、東京の帝京平成大学内集会室、南部労政会館で第30期第1回評議員会が開催されました。富山県からは評議員として荒井が出席しました。

学校の部活動での体罰が原因で高校生が自殺したり、女子柔道オリンピック強化選手の監督が女子選手たちに暴力行為をしていたこと、しかもそれを学校・教育委員会、全柔連が隠蔽しようとしたことが明らかになって、大きな問題となっていた時でもあり、評議員会でも議題として取り上げられました。二つの事件とも特別なものではなくて程度こそ違え、日本中どの社会でもあることで、表沙汰になっていないものがたくさんあるのではと思います。

何故このようなことが繰り返し起きてくるのか。ハッキリしていることは、指導者が指導される者を対等な存在として認知していないからということ。相手の人（子供であれ）を一人の人間として尊重する気持ちがあれば、指導の過程での言葉掛けひとつにもそれが表れてくるはず。

もちろん、実際の指導現場においては、相手の気持ちを慮ってばかりでは、実のある指導は出来ないと言う意見もあると思う。が、指導される側にしてみれば、年齢差の威圧感、立場上の優劣による弱さを抱えているのだから、優位にあるはずの指導者が相手を対等な人間として認識し尊重することは絶対に必要。

厳しさと優しさは指導には両方とも欠かせないものですが、まず、相手を一人の対等な人間として尊重することがあった上での話。

これらの問題は、特定の教師や監督の人柄、資質を問うだけではまったく不十分で、スポーツ界・教育界にある権威主義的な考え方や、責任逃れの事なかれ主義（無責任体質）にこそメスを入れ、改善策を実行し続け、外部の我々が常に注視していくことが大切であると思います。

スポーツは人間にとって何なのか。金メダルを幾つ取るか、スポーツで経済効果〇億円、学校のネームバリューを高める・・・そんなもののためにスポーツを利用するのはやめて欲しい。スポーツはひとりひとりが豊かな人生を享受するためにこそある。そのことを銘記すべきだと繰り返し言いたいです。

今回の評議委員会では、声明文：**スポーツから「体罰」・暴力・ハラスメントをなくすための共同を！**を出すことを決議しました。その内容は次頁のとおりです。

今回の評議委員会では 2012年度活動報告 2013年度重点活動方針案、第29回全国スポーツの祭典の総括・中間決算など多くの議題が討議され、活発な意見が多く出されました。次回に詳しく報告します。

## 声明＝スポーツから「体罰」・暴力・ハラスメントをなくすための共同を！

大阪市立桜宮高校のバスケットボール部キャプテンの自殺が顧問教師の「体罰」に起因することが明確になり、これを契機に学校の部活動における「体罰」・暴力問題が次々に明らかにされつつあります。

学校の部活動における「体罰」だけでなく、全日本女子柔道監督の選手に対する暴力行為の実態とそれを黙認してきた全日本柔道連盟（全柔連）の後進的で閉鎖的な体質が明らかになりました。2月4日に公表された、柔道女子ナショナルチームの15選手連名による告発は、選手としての道を断たれる恐れや周りへの影響などを悩み抜き「必死の思い」で「競技者が、安心して競技に打ち込める環境」の整備を求めるとともに、「私たちは、すべてのスポーツにおいて、暴力やハラスメントが入り込むことに、断固として反対します」と述べています。（注：「ハラスメント」とは、嫌がらせ、いじめの意。セクシュアルハラスメント、パワーハラスメントなどとして使われる）

こうした事態を受け、様々なスポーツ関係者、多くのスポーツ団体をはじめ国民各層の間で、スポーツから「体罰」・暴力をなくすための新たな努力が始まっています。

新日本スポーツ連盟は創立以来、「スポーツは万人の権利」として発展させることをめざしてきたスポーツ団体として、スポーツから「体罰」や暴力をなくすために、すべてのスポーツ関係者、スポーツ団体と共同してあらゆる力を尽くしたいと考えています。

スポーツにおいて、「体罰」や暴力は人間性と人権を否定するだけでなく明白な犯罪でもあり、絶対に容認できないものです。また、自主性の尊重とスポーツの価値の核心であるフェアプレイ精神と対極にあるものです。その点で、今後「体罰」や暴力を行使した指導者は、スポーツの指導の場面から無条件に排除し生徒や選手達を保護すべきです。同時に、スポーツ界をはじめ社会においても「信頼関係があればある程度の暴力も許される」などと「体罰」や暴力をふるう指導と指導者を容認する風潮が根強くあり、「体罰」・暴力を繰り返してきました。その背景には、スポーツ団体の非合理的で非民主的な運営、プレイ場面における選手の個性と人権を無視した指導など、スポーツ界の後進的な体質があります。さらには、本来スポーツ界の自主的な目標であるべき五輪でのメダル獲得目標を「スポーツ基本計画」に直接掲げるなど、政府・文部科学省が「メダル至上主義」「勝利至上主義」をスポーツ界に押しつけていた弊害も否定できません。

いま、私たちスポーツに関わるすべての人びとには、自殺したキャプテンの死や柔道女子選手15人の勇気ある行動を無駄にしないために、スポーツ界の「体罰」・暴力とそれを容認する風潮をなくすための決意と行動が求められています。

新日本スポーツ連盟は、“学校の部活動や子どものスポーツはもちろん、すべてのスポーツにおける「体罰」・暴力は、スポーツの価値を否定するものであり、スポーツとは絶対に相いれない”という立場をあらためて表明するとともに、自らの組織と活動においても、「体罰」・暴力・ハラスメントを絶対に容認しないことを宣言します。

同時に、新日本スポーツ連盟は、スポーツ界から「体罰」・暴力・ハラスメントをなくすため、率先して奮闘するとともに、日本オリンピック委員会（JOC）、日本体育協会、全柔連をはじめ、すべてのスポ

スポーツ団体とスポーツ指導者が、共同して以下の取り組みを進めることをよびかけます。

- ①すべてのスポーツ団体と指導者は、「体罰」や暴力・ハラスメントを行わないことを表明し、今後、「体罰」・暴力を行った指導者はスポーツ指導の場面から無条件に排除すること。
- ②スポーツの競技者が「体罰」・暴力・ハラスメントなどについて、意見表明する権利を保障する機構、制度を確立すること。
- ③すべてのスポーツ団体、スポーツクラブ・チームは、選手・競技者、会員の尊厳と人権を尊重し、民主的で公正・公平で開かれた組織運営に努めること。とりわけ、女性競技者の意見が組織運営に正に反映されるよう女性役員の拡充をはかること。また、スポーツ指導やスポーツ活動の場面において選手・競技者の尊厳と人権を尊重すること。
- ④人間の尊厳と個性の尊重に重きを置くスポーツは「体罰」・暴力とは相いれないという指導理念の確立、さらに競技力の向上は、科学的で合理的な指導方法やトレーニング方法によって実現するなど、指導者の資質の向上をはかること。
- ⑤学校教育法で禁じられている「体罰」・暴力を学校の部活動から一掃し、部活動を生徒の主体的で自主的な活動として発展させること。そのためにも、顧問教師の専門的な知識と指導力を養成する研修制度の確立、適切な配置および奉仕的な活動への時間的経済的な保障をはかること。さらに、学校の部活動にたいし勝利至上主義と過度な選手養成を期待する行政やスポーツ界のあり方も検討すること。

最後に、すべてのスポーツ団体が、わが国のスポーツからあらゆる「体罰」・暴力・ハラスメントをなくし、「スポーツを通じて幸福で豊かな生活を営むことは全ての人々の権利（スポーツ基本法）」にふさわしいスポーツを実現するために、協力し合い、広く国民的な討論を起こすことをよびかけます。

2013年2月24日 新日本スポーツ連盟

## 富山県連盟に初のパークゴルフのクラブが誕生

4月6日にパークゴルフのクラブが出来ることになりました。いまや中高年のスポーツの中で一番愛好者が多いのはウォーキングかパークゴルフではないでしょうか。富山県連盟にはウォーキングクラブは既にありますが、パークゴルフは未だひとつもありませんでした。待望のクラブです。正式名称等、詳しいことは5月号お知らせします。4月と5月のプレーの予定は下記のとおりです。誰でも飛び込み参加できます。

日（曜日）	時間	場所
4月6日（土）	午後1時から	富山市友杉の『とやま健康パーク』
4月16日（火）	午後1時から	富山市友杉の『とやま健康パーク』
5月5日（日・祝）	午後1時から	射水市水戸田『南郷パークゴルフ場』
5月15日（水）	午後1時から	射水市水戸田『南郷パークゴルフ場』

## 古代ギリシャ4大競技場を巡る

# ギリシャ旅行

(7) スポーツ連盟とやま 林 憲彦

ギリシャ7日目は「デルフィを出発し、マラソン経由アテネへ」

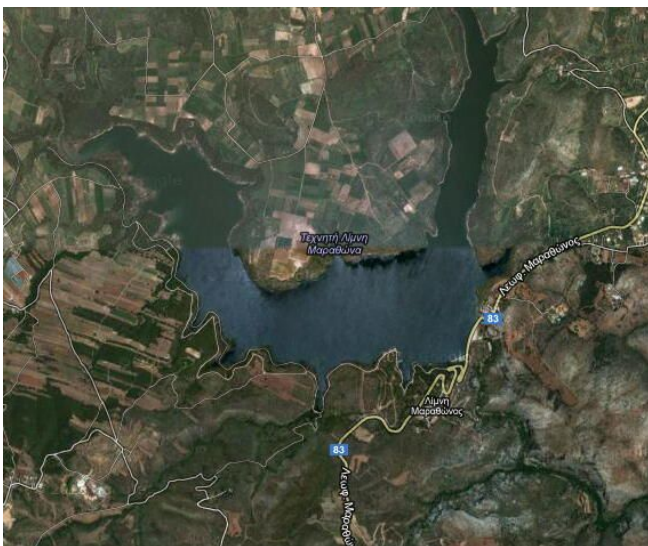
山間を走る。ギリシャでは乾燥しているため自然発火による山火事が頻発しているとのこと。

途中の山も大きい木は焼けこげ、小さい木々だけの山が多く見受けられました。

アテネの水瓶の「マラソンの湖」(ダム湖)に到着。

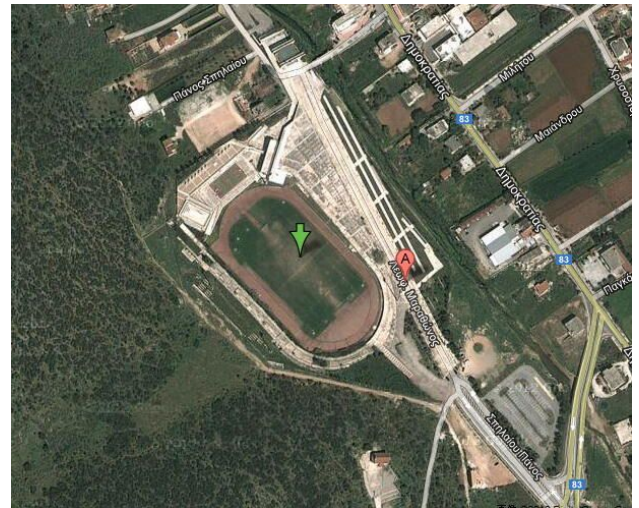
ダムの上の道路は狭く一方通行で、しばし信号待ち。このダムはアテネ市民の水瓶とか、アーチ式ダム(黒四と同じ形)でした。

マラソンの湖の位置情報(38.16568,23.90507)です。Googleで楽しんでください。



マラソンの町のタベルナで昼食。

その後、アテネオリンピックのマラソンのスタート地点に立つ。ここからアテネまでの42.195 Kmを走り、野口みずき選手が優勝したとのこと。



アテネオリンピック、マラソンのスタート競技場の位置情報 (38.151146,23.961085)

つい、私も走ってみたいくなりました。

道路には、青いペンキでランナーの誘導が書かれていて、いまにも選手が走ってきそうな気がしました。

アテネへ着いて夕食は外で摂りました。



このレストランにOさんのお知り合いの志村亜紗子さんからおにぎりの差し入れがあり久し振りのごはんを美味しく頂きました。

ついで、皆さんお褒めの「ギロ」(インドヤネパールで頂くタンをまるめそこにいろいろな具材を詰めたようなもの)を頂きました。大変美味しく、日本へ帰ったら造ってみようと思うくらいでした。(次号に続く)